ソンの鉄、ソムの鉄

五両紋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ソンの鉄、ソムの鉄

【Ｎコード】
Ｎ５２０７Ｄ

【作者名】
五両紋

【あらすじ】
ソムとソン幼馴染の二人ある日山で猪を捕まえて、鉄の島を手に入れる。ソムとソンの生きる時代では貴重な鉄である。二人の鉄の使い方は全然異なる。それぞれが、鉄を使い幸せをつかむ話である

昔レキオで、やんばるの森が見える海辺の村に二人の少年ソンとソムがいました。二人は体も丈夫で活発でした。二人は仲良しで勉強よりも山や海で遊ぶのが好きでした。この日も二人は学校に行かずに、猪を捕まえに山に入りました。

ソンは足が速く、腕も長く、耳も人より大きく、ソムは力持ちで、大きな声で叫ぶと、村中の人が驚くほどでした。

二人は猪の縄張りに来ると、ソムは検討をつけて樹を引き抜きます。やがて猪の巣のある根を引き抜くと猪は逃げ回ります。ソンは追いかけて猪に追いつくと、長い腕で猪の耳を捕まえひねって倒しました。猪は大きく子供の猪が沢山、茂みに隠れて見ていました。

ソムは大声で叫ぶと、辺りの木々は激しく揺れ、茂みに隠れる猪の子は痺れてひっくりかりました。

少し離れた所で、メスの猪が見ていました。メスの猪は、助けようと、女真人に変身してソムとソンに話しかけました。

「どうかその猪を逃がしてください、そうすれば一つ願いをかなえてあげますよ」

・・このレキオの時代は家はかやぶきで、転々と集落があり、島中がまづしい生活をしていました。東方にある大和の国に比べると発展がとても遅れていました。レキオでは鉄がなく、とても貴重なものでした。・・

ソムとソンは海に見える、小島を見て口をそろえて言いました。

「向こうに見える、小島と同じ大きさの鉄の塊をくれたら、逃がしてもいいよ！！」

聞いた女真人は

「ありがとう、では猪を返してもらうよ」

すると女真人と猪は森の中に消えて行きました。

二人は急いで、やまを下りると、岸辺から鉄の小島が二つあるのを見つけました。

　ソムは、早速家を鉄で建て直し、別荘も建てました。鉄は小指ほどあれば、一ヶ月分の食料と交換する事ができたので、ソムの家族や親戚は、ソムの大きな鉄の家に住んで仕事なんかしなくなりました。ソムは島中を旅して周り、鉄の話をすると、人々はうらやみ、沢山の娘が、お嫁さんになろうと集まってきました。村に帰ってくる頃には、綺麗な女１００を連れてきて、結婚しました。

ソムは毎日が楽しくてしかたがありません。

一方ソンですが、ソンは両親が無く、村の中心にある、拝み所の横の小さな納屋で暮らしていました。村の人たちが食事や、生活の世話をしていました。ソンが悪い事をしたときには、タケおじいが叱り、ソンが泣いたら、ヨウ姉さんが慰めてくれました。

ヨウ姉さんは薬草の畑を耕していましたが木の道具では、三日もすると壊れてしまい仕事がはかどりません。ソンは鉄の道具を作ってヨウ姉さんに渡しました。
ヨウ姉さんはとても喜びました。
ソンは、鉄の道具を沢山作って村中に配りました。村中の人は喜びました。

タケおじいはキビを絞り砂糖を作る、工場を作ろうとしていましたが、キビを絞る歯車は木でできているので、三日もたつと壊れてしまい困ってました。ソンは鉄の歯車を作りタケおじいに渡しました。
タケおじいはとても喜びました。

ソンは沢山の鉄の道具と歯車を作り、島中に配ってまわろうと決めました。
ソンはソムに聞きました
「島中を旅してまわるけど、道筋や気をつけるべき事があれば教えてほしい！」
ソムは気持ちよく答えましたが、最後にこう付け加えました。

「綺麗な娘は皆、俺の家にいるから欲しければ、相談にのるよ！　僕達は友人だし、１００人の妻では正直僕も疲れるしね、ハハハ」

ソンは言いました。
「君の１００人の奥さんは確かに綺麗だし、島中にはもう、これほどの娘さんはいないと思うさ、でも僕は奥さんは一人でいいし、ヨウ姉さんみたいな人を考えているんだよ、ヨウ姉さんは綺麗ではないけど、薬草に詳しくとてもやさしい人なんだよ」

そういうとソンは１００の歯車と道具を持って旅に出ました。

ソンは旅から帰ると、翌年も、またその翌年も１００の歯車と道具を持って旅にでました。ソンは鉄の小島がすべて無くなると、村の外れに、キビ工場を作り、薬草の畑を作りタケおじいとヨウ姉さんと一緒に暮らしました。

やがて１０年が過ぎて、ソムの鉄の家はさびて、つぶれてしまいました。すると親戚同士で、喧嘩が始まり家を出て行きました。
１００人の奥さんは、病気になったり、愛人を作って逃げたり、夜中にこっそり家をでていきました。

ソムはさびしくなり、歩いていると、いつの間にか、やまにきていました。

ソムは海の向こうを見ると、ソムの鉄の小島がまだ少し残っているのが見えます。ソンの鉄の小島があった所は、すっかり海になっていました。

ソムの左手には最初に作ったピカピカの、鉄の腕輪が今では錆びて、赤く血の塊のようになっています。

「こんなに錆びてしまって、昔はピカピカでこれを見せると、娘は皆嫁さんにしてくれと騒いだものなのだが・・・」とため息をつきました。

しばらくそこに立ったまま、海を見ていると、ソムの錆びた鉄の屋敷の反対側に、ヨウ姉さんとソンが、畑を耕すのが見えます。

ソムは木を倒して、誰も超えられないような大きな壁を作り、森を囲いました。ソムは一人きりで森の中で暮らすようになりました。

しばらくするとソムの腕輪は錆びてしまい、腕から落ちるとソムは、涙を流して、囲いの壁に、穴を開けて、鉄の家の辺りを見ながら泣き出しましたました。

ソムの錆びた家はすっかり跡形も無くなっていましたが、反対側では、ヨウ姉さんとソ

ンが畑を耕しています。

ソムの大きな泣き声は村中に響いて、ヨウ姉さん気づいて、ソンに言いました。

「友達のソムが、悲しく歌っているから、見てきなさい」

ソンがやまに行くと、壁の周りに、村の人々が集まっていました。人々はソムの悲しい歌は、不吉なのでやめるように、言いましたが、それを聞いてソムは声を大きくして泣きました。

茂みに隠れて見ていた、猪の子供は痺れてひっくりかえりました。

メスの猪は驚いて、子供の猪を確かめましたが、気がつくと直ぐにまたひっくりかえります。

メスの猪は女真人に変身してソムに話しました。

「泣くのをやめてくれないか、そうすれば一つ願いをかなえてあげますよ」

ソムはその声を聞くと泣きやめました。

「鉄の島の残りを消してくれ、そして惨めな俺を、鳥にして欲しい、そうしてくれたら、俺は、ニライカナイの島に飛び、きじむなーを探して旅をする」

ソンは壁の向こうから聞いていました。
ソンは言いました
「鉄の島の残りは消してかまいませんが、友人を鳥に変えないでください、もし鳥にしてしまったら、私が悲しい歌を歌う事になります」

女真人は、鉄の島の残りを消し去ると、子供の猪を連れて、山に消えて行きました。

ソムは泣きつかれ、倒れてしまいました。
村人は家に帰っていきます。
ソンは一緒に家に帰ろうといいますが、ソムは倒れたままです。

ソンは、畑に戻り鉄の道具を取ってきて、地面を掘り返し、壁の下から穴を掘ろうとしましたが、壁は地中深くなかなか難しい。

村の人々は、ソンからもらった鉄の道具をもって集まり、手伝いました。
すると、三日目には穴があいて、ソムを連れて家に帰りました。

ソムが目を覚ますと、ソンは鉄の道具を渡して話しました。
「これはとても素晴らしく、畑を耕せば暮らしてゆける、畑は丘の斜面がよく、いつでもレキオの素晴らしい海を眺めながめられる」

ソム言いました。
「お前と二人でやまに行き、鉄の小島を手に入れた、俺は鉄のおかげで１００人の美女を妻にもらい幸せになったけど、鉄が錆びて今では惨めな気分だ、なのにお前の鉄は錆びていないようだし、とても幸せに暮らしている。なぜだろうか、とても不思議でならないのだが？」

ソンは答えました
「いや、俺の生活はまづしく、つらいものだ、まづしさのあまり時々愚痴をこぼしたり泣いたりすると、タケおじいが叱って、ヨウ姉さんが、キビジュースを作って飲ませたり、歌って慰めてくれるのさぁ、だから一生懸命な気持ちになれるんだ、それに島中の人から時々手紙がきて、鉄の道具や歯車のおかげで、仕事が楽になった事が知らされるんだ」

ソムはそれを聞いて泣き出しました。
タケおじいが来て叱りました
「うるさいから泣くな、不吉だ、お前は怠けた者だから、悲しく不吉になるんだ、これからは一生懸命働け！！」といってゲンコツを三つして、タケおじいは歩いていきました。

しばらくすると、ヨウ姉さんがキビジュースを持ってきて、ソムとソンに飲ませてくれました。

キビジュースを飲み終わる頃には、ソムは泣き止んでいました。

向こうのキビ工場から、タケおじいの声が聞こえます。

「えぇーー　そこで泣いてるソムいよ！　早く来い、キビを絞らんといかんだろ！！　お前が手伝わんと、今日中に終わらんさぁー、早くこい」

ソムはヨウ姉さんにお礼を言って、タケおじいの工場に歩きました。

おしまい・・

@昔のレキオ

レキオの名称は、中世のヨーロッパ人のもので、アジアでは、オコナハとかリュウキュウといいます。

本当に不思議な話ですねぇ。

なぜソムの鉄は錆びたのに、ソンの鉄は錆びないのか？

そういえば、ソンの鉄はいつまでも錆びることなく今でも、畑を耕しキビを絞っているそうです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5207d/

ソンの鉄、ソムの鉄

2010年10月10日23時46分発行